認定NPO法人 環境市民の月刊会報誌
2018年10月 305号

みどりのニュースレター

カクレクマノミ

今月の一枚



アニメ「ファインディング・ニモ」で有名になったカクレクマノミ。クマノミはイソギンチャクと共生していることは良く知られていますが、その共生には褐虫藻という単細胞の藻類も加わっています。イソギンチャクは褐虫藻にも棲むところを提供していますが、褐虫藻が光合成によって得た栄養をもらって成長しています。クマノミは刺細胞をもつイソギンチャクの中で生活することで、外敵から身を守っていますが、褐虫藻はクマノミの糞を栄養源として活用しているのです。サンゴ生態系の一員でもあるクマノミも、気候変動による海水温の上昇で棲息域を減らしています。カクレクマノミのような魚が絶滅することのないようにするためにも「パリ協定」は大切です。

撮影地：オーストラリア・グレートバリアリーフ
写真 / 文章　枚本 育生（環境市民代表理事）

今月の内容

p.2-3　第１回「自治体政策評価オリンピック」先進事例　～交通分野先進事例①②～
p.4　グリーン連合が「炭素税」の導入を国に提言
p.5　ゆっこのカナダ便り（9）
p.6　会員紹介　谷田 泰さん（東京都）／ぐりちょばなし　育てる醤油（自分で育てる醤油）
p.7　今月の行事案内
p.8　クラウドファウンディングはじめます！

第１回「自治体政策評価オリンピック」先進事例

環境首都創造 NGO 全国ネットワーク幹事　大西 康史

自治体に調査票（政策例を示し実施の有無を回答いただくものであり、政策提案書でもある）に答えていただき、自治体間の政策の切磋琢磨と先進事例掘り起こしや共有等を狙いとする「自治体政策評価オリンピック」。

連載 3 回目の今回は、「交通」に関する 2 つの先進事例をご紹介します。

①「路線バスの空白地域に定着したコミュニティバス」京都府八幡市（人口：71,734 人【2017 年 11 月 30 日現在】）

【ポイント】

市民の足として定着し、コンパクトシティの一翼を担うコミュニティバスである。

【内容】

路線バスの空白地域である市域の東西方向を、公共施設や医療施設、商業施設を結ぶコミュニティバスとして運行されている。市民の足として定着し、2016 年度は、利用者数　92,299 人／ 71,958 人（2016 年 3 月末人口）となっている。また、2004 年度に 7,839 人だった利用者数は、2016 年度には 92,299 人と増加している。増加の要因として様々な取り組みが行われていることが挙げられるが、明確に利用者数の数値目標が設定されていることも挙げられる。ちなみに 2017 年度は、１便につき 13.0 人の乗車を指標としている。また、乗車しやすくするための工夫を紹介すると、コミュニティバスは１時間に１便しかないものの、わかりやすいパターンダイヤが導入され、平日や土日・祝日に関係なく無休で運行されている。

運賃は 200 円均一で PiTaPa、ICOCA なども利用できる。チャージは不可だが、その他 IC カード（Kitaca・PASMO・Suica・manaca・TOICA・はやかけん・nimoca・SUGOCA）も利用可能となっている。また、１日乗り放題 300 円の１日乗車券も導入されている（通常片道運賃：200 円）。この１日乗車券は、車内はもちろんのこと営業所や市役所だけでなく、生涯学習センターや市民体育館、温泉や宿泊施設とレストランが併設された無添加の農産加工品の販売を行う施設などでも購入することができる。ユニークなのは、使用済み１日乗車券が 20 枚たまると、新しい１日乗車券１枚と交換することができることだ。

他にも、乗り継ぎバス停が設置されており、乗り継ぎの場合の料金は、大人・小児とも 50 円で利用が可能だ。やわたコミュニティバスは利用者数を増やすために、このような利便性の向上を幾重にも重ね、利用者数に基づいた経路変更の実施も行ってきた。その結果、市民の足として定着しコンパクトシティの一翼を担うコミュニティバスとなっている。

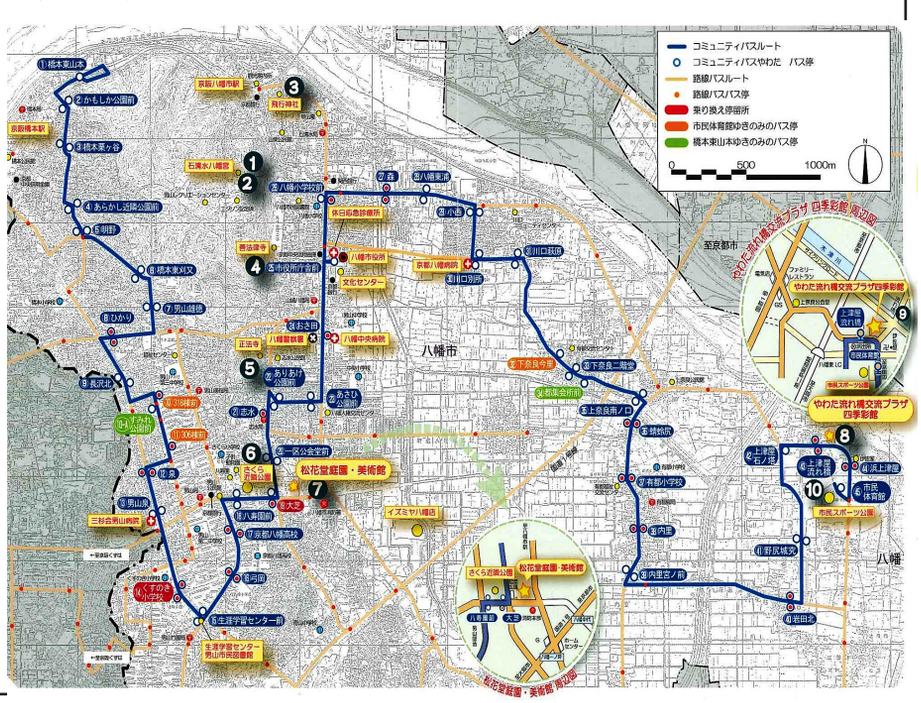
【参考ＵＲＬ】

八幡市ウェブサイト（コミュニティバスやわた利用案内）

http://www.city.yawata.kyoto.jp/0000000082.html

【連絡先】

八幡市環境経済部環境保全課



コミュニティバス経路図

②「地域がつくる地域でつくる「地域内交通」山口県宇部市（人口：166,969 人【2017 年 12 月 1 日現在】）

【ポイント】

地域が自らそのニーズや実情に合わせて、地域内の公共交通をつくる仕組みを支援している。

【内容】

宇部市では、路線バスが運行していない地域やバス路線の見直しを行う区間、その他路線バスが運行できない地域を対象として、地域のニーズや実情に合わせて、地域が主体となってタクシー等による公共交通を運営する「地域内交通」の取り組みを支援している。具体的には、要望のあった地域に出向き、地域内交通に関する説明会を行うとともに、その後の以下の導入工程を示し、その全ての工程を市が支援している。

（導入工程）

＜ステップ１＞「地域組織の設立」

地域内交通の導入を検討していくグループができれば、継続的に話し合いを進めていきます。

＜ステップ２＞「地域のニーズを調査」

聞き取り調査やアンケート調査などを行い、地域の方の移動ニーズを把握します。

＜ステップ３＞「運行ルートの検討」

ステップ２をもとに、運行ルート（区域）や目的地などの検討を行います。また、運行する事業者や、車両タイプを検討します。

＜ステップ４＞「運行計画の作成」

ステップ３のルート案をもとに、停留所、運行ダイヤ等の運行計画を作成します。運行事業者を決定するとともに、運行経費や運賃を決定します。市は、道路管理者、公安委員会、地域公共交通協議会などと必要な調整を行います。

＜ステップ５＞「目標値の設定」「周知・広報」

地域の公共交通として、安定的に運行できるよう、目標値を設定します。地域の方へ周知し、皆さんに利用していただきます。

＜ステップ５以降＞

実証運行を経て本格運行へとつなげ、その後検討・見直しを行い、継続・廃止を検討します。

なお、運行形態は、路線バスと同様に、決まった時刻・ルートで運行する路線定期運行と、決まった区域内で予約を受けて運行する区域運行とを地域の実情に合わせて選ぶことができる。

また、市内 7 地区で地域内交通が導入されている。

【参考ＵＲＬ】

宇部市ウェブサイト（地域内交通のページ）
http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kurashi/koutsuucchuushajou/koukyoukoutsuu/tiikinaikoutsuu.html

【連絡先】

宇部市総合戦略局　コンパクトシティ・共生型包括ケア推進グループ



地域内交通に関する説明会

グリーン連合が「炭素税」の導入を国に提言

環境市民　代表理事　枚本 育生

環境市民は、全国的な環境 NGO のネットワーク「グリーン連合」に共同代表を送るなど、その活動に積極的に参加しています。グリーン連合では、パリ協定の実現のために必要な日本社会に大きな転換を促進する「炭素税」の導入を求める要望書を環境省に提出しました。当日は、とかしき環境副大臣が要望書を受取り、「パリ協定以上のことをやらなければならない。炭素税の重要性については十分認識しており環境省としても全力を尽くす。政治からの明確なメッセージを出す必要がある、そのためにも、グリーン連合のこの要望書を様々な議員や経産省はじめ、あちこちに出してほしい」旨の発言がありました。グリーン連合では、このようなアドボカシー活動を続けていきます。

2018 年 9 月 19 日

環境大臣 中川 雅治 殿

炭素税は、国民的議論も踏まえて、早期に導入を

「グリーン連合」共同代表
藤村コノエ、枚本 育生、中下 裕子

近年、毎年のように異常気象現象が国内外で発生しているが、今年の夏の豪雨、熱波はまさに、異常そのものであり、気候専門家のかねてからの警告をも上回る規模で、多くの国民の生命・財産が奪われており、改めて、気候変動がもたらす影響の深刻さと、「パリ協定」を実現することの重要性を痛感している。

これまでも、日本の政府や企業は、温暖化対策にそれなりに取り組んできたが、肝心の CO_2 等温室効果ガスの排出量は、過去 26 年間の経済動向などを反映して、多少の増減はあるものの、殆ど減少しておらず（直近の 2016 年では、対策の出発点である 1990 年比で 2.7% 増）、気候変動に、より大きな責任を有する先進主要国の中では、唯一増加した国として、その責任が国際社会からも厳しく問われているところである。

安倍総理は、6 月 4 日に開催された「未来投資会議」の席で、「もはや温暖化対策は企業にとってコストではない。競争力の源泉だ。温暖化対策はこれまで国が主導して義務的な対応を求めてきたが、脱炭素化を牽引していくためには、こうしたやり方では対応できない。ビジネス主導の技術革新を促す形へのパラダイム転換が求められている」と、これまでにない前向きな発言をしている。しかし、そのひと月後に閣議決定された「エネルギー基本計画」では、「パリ協定」以前の、化石燃料や原子力発電を重視する政策であり、このことは、日本政府の「パリ協定」への取組姿勢を改めて問われる内容である。

現在、安倍内閣は、2050 年 80% 削減に向けた長期ビジョンの作成に取り組んでいるが、この削減目標を達成するには、炭素税や排出量取引など「カーボンプライシング」と呼ばれる経済的手法の導入が不可欠であり、このことは専門家も長らく主張してきたことである。何故なら、世界的に見れば、既にこの政策を導入している多くの国では、温室効果ガスを削減する一方で GDP は増加するといった効果（デカップリング）が実証されているからである。

しかし、日本では経団連加盟の一部のエネルギー多消費産業と経済産業省の非合理的で執拗な反対により、いまだにこの政策は導入されておらず、このことは、国益を大きく損なうのみならず、次世代を担う子どもたちに、大きな負荷を背負わせる、極めて無責任な対応と言わざるを得ない。

私たちグリーン連合は、長年、現場で多くの市民や先進的な自治体・企業と連携して温室効果ガス削減に取り組み、研究も重ねてきた経験から、地球温暖化を食い止めるには、カーボンプライシング、特に炭素税の導入こそが最も有効な政策であると確信しており、その早期導入を強く要望するものである。

また導入に当たっては、公平・公正で全ての国民の幸福や社会の持続性のための炭素税となるよう、広く国民的な議論を展開することを強く要望する。

ゆっこのカナダ便り（9）

文 / たけだゆっこ

皆さんこんにちは。カナダの南西にあるガリアーノ島の歴史について、今回は木材企業の暴走とそれへの対処、その過酷な状況下で進められた活動についてご紹介したいと思います。

企業に売られた土地

独自にアセスメントを行い、高額で土地を不動産売買しようとする木材企業の MacBlo に対して、コミュニティーとして土地を買い取ろうと資金集めに奮闘した Galiano Conservancy Association（GCA）。遂に目標としていた 1 千万ドルを集めることに成功した時、これに対して MacBlo は強行に対話の場を中止させ、7,800 エーカー（約 3,150ha）の土地を住宅地価格で売りに出してしまいました。そこでコミュニティーは、行政機関である Islands Trust と連携して、不動産販売された土地に対して The Private Managed Forest Land という規制を作り、住宅一戸に対して一定規模の森林を保全する義務を課したのです。

SLAPP

1992 年、MacBlo は SLAPP（十分な資金力を持つ企業が、小さなコミュニティーを訴えることで市民活動の力をそぎ落とそうとする訴訟）を起こしました。GCA 等を相手に、陰謀によって企業が所有する土地の価値を低下させた等として高額の補償金を請求。さらに、企業の開発計画を制限している上記のようなコミュニティー規制の妥当性を問う訴訟にも挑んできました。GCA は Sierra Club Legal Defense Fund（現 Earthjustice Legal Defense Fund）の大きな助けを借りながら裁判へ懸命に立ち向かい、最終的に無罪を勝ち取りました。

特色ある環境の保全

MacBlo が不動産として土地を売り払った危機は、一方で数百エーカーの特色ある多様な環境を保全しようという新たな運動の始まりでもありました。GCA は他団体とも協働し、次々に土地を取得して特色ある環境保全プロジェクトを進めてゆきます。1993 年からは、島の中心を横断するように、森林や湿地を保全する複数のプロジェクト地を繋ぎ、全体として 924ha になる保全帯を作るという大きな構想も進んでいます。多様なフィールドでは今も、環境教育プログラムや大学との研究などと関連付けながら保全活動が継続されています。特筆すべきは、このような活動が、企業からの SLAPP による脅威と資金不足の下で進められたということです。

Pebble Beach Reserve :District Lot 63(DL63)

私が担当として最も深く関わったのは、企業によって皆伐・プランテーション開発された森を長い年月をかけて森林再生させようとしている DL63 という地区です。Douglas Fir のプランテーションで一切機械を用いずに間伐して密度を下げ、多様な森林環境と生物多様性を復活させようとしています。機械を用いたことで、自然の回復力を超える破壊が進められた反省。ここでの森林再生は、大学の研究者とともに最良と思われる考えに基づいて進められていますが、その再生活動も、人間の考えが及ばない弊害を生み出すリスクを常に抱えている。だから万が一この活動が間違っていても自然の力で元に戻れる範囲内であるために、機械は決して使わないのだと言います。また当初より、この森からの間伐材を島民が利用する薪として販売する構想があります。彼らの活動目的は環境保護から始まりましたが、次第に持続可能なコミュニティーづくりへとシフトしてきました。ここに暮らす人々の生活。しかしコミュニティーは環境が破壊されてしまうと持続可能ではいられないことをガリアーノの人々はよく知っています。



DL63 でプランテーションの木を人力で滑車とチェーンを用いて引き倒している様子

会員紹介　谷田 泰さん（東京都）



㈱タニタハウジングウェア代表取締役社長
NPO法人緑のカーテン応援団　副理事長

●環境市民との出会い

しっかりとした記憶がないんですが、枚本育生さんと名刺交換したのが 2006 年 8 月となっているので、おそらく緑のカーテンの活動が全国的に広がりつつある中で、お会いしたように思います。環境の様々な問題に対して広い視点で活動されていることに驚きました。その後、第 4 回全国緑のカーテンフォーラムを 2010 年 7 月に京都市で開催する際にもご協力いただきました。

●お仕事と環境のつながりは？

雨のみちをデザインする仕事をしています。作っているのは金属製の雨といや雨水タンクなどです。「天気が悪い＝雨」という認識を、雨の日も楽しいかもといってもらえるような社会にしていきたいと思います。

●環境問題で気になること

自分事として考えることの大切さを感じています 3.11 では弊社の子会社工場が 1.5m の津波にさらされました。また仮設住宅に緑のカーテンを設置する活動の中、福島第一原発を見学する機会もいただきました。便利な世の中になり、無関心でいられることも増えましたが、地球環境に関わる様々なことを自分事として考えることが求められていると思います。いかにエネルギーを使わずに生活するか、必要最低限の自然エネルギーで生活するか。来夏もどこかの仮設住宅に緑のカーテンを設置していきたいと思います。

●これからと環境市民への期待

歴史や様々なつながりのある環境市民さん。すでに取り組んでいますが、環境に関わる様々な団体のプラットフォームとしての活躍を期待しています。また、自然や地域で生活する人たちと当たり前のようにつながっている田舎にもっと視点を置くことも大切だと思います。都会では便利になった分、本来必要だったつながりまで断ち切ってしまっているように思います。本当の豊かさとは何かを見つけるヒントがあるように思います。

（聞き手　環境市民　副代表理事　下村 委津子）

ぐりちょばなし　育てる醤油（自分で育てる醤油）

大学生のとき、農的くらしの授業で畑をしたり玄米を炊いたり味噌仕込みの見学、手づくりビールを味わうなどさまざまな体験をしました。その中で、特に味噌づくりは日本食の基本調味料、さ（砂糖）・し（塩）・す（酢）・せ（醤油）・そ（味噌）の一つが、手づくりできることに驚ました。味噌以外のさ・し・す・せの調味料を手づくりすることはできるのかなと調べていたら、自分でつくる（育てる）ことができる商品名「育てる醤油」を見つけました！ この醤油は、既に仕込まれた醤油麹に手を加え自分で育て、絞って、フレッシュなできたての醤油と、醤油を絞った後のもろみまで味わえる、おいしさや風味を堪能できる醤油キットです。醤油麹に水を注いで、かわいい子になりますようにと愛情をたっぷり混ぜて、微生物の働きに期待をしつつ発酵熟成の過程をゆっくりじっくりと気長に待つこと半年以上……やっと完成する醤油は、完全オリジナルなどこにもない味わい！

「育てる醤油」は、京都府綾部市志賀郷地区に I ターンして来られた方々が、2017 年 4 月にスタートした今しぼり工房から生まれた商品です。豊かな里山の自然が溢れる志賀郷地区で、日々ていねいに自然と向き合う暮らしの中の楽しみや大変さ、都市に住んでいた頃には見えなかった発見など、商品を通して「経験や思い」を世の中に発信したいという熱意があるそう。

おいしい調味料があれば、料理をするときもこころ強い。涼しくなって秋めいてきた今日この頃。味わい深い醤油をゆっくりのんびり手づくりしてみませんか？

「今しぼり」https://www.imashibori.com　　広報ボランティア　堀家 沙里

環境市民主催：映画「小さき声のカノン」上映会
ボランティアも募集中！

10 月 8 日（月・祝）午後 0 時～午後 3 時 40 分（11 時半受付）

ところ：ひと・まち交流館 京都　大会議室（京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1）
アクセス：市バス4，17，205号系統「河原町正面」下車すぐ　京阪電車「清水五条」下車　徒歩8分
参加費：1,000円

「小さき声のカノン」は、福島で放射能に汚染された地域で暮らす母親たちがなんとかして子ども達を守ろうと悩みながらもあらゆる手を尽くし模索している映画です。

今年 6 月、放射能汚染土が園芸作物などを植える農地の造成にも再利用する方針を環境省が決めました。今こそ、もう一度、福島の母親たちの声をしっかり受け止め寄り添い、自分たちでするべきことを考えたいと思います。当日運営にご協力いただけるボランティアも募集しています。

申込み・問合せ：NPO法人環境市民　　担当：下村 委津子
電　話：075-211-3521　　E-mail：life@kankyoshimin.org
＊メールの場合は、タイトルを「**小さき声のカノン申込み**」としてください。

環境活動パワーアップ講座2018

本講座は、受講者が地域や NPO/NGO での環境活動の企画、運営、実践までを一貫して学ぶことができます。効果的な環境活動を行なうための仲間づくり、仲間や協力者を活かすコーディネート力、多くの人々から共感と参加を得られる企画・提案・実践力、ネットワークやパートナーシップを築き活かす力などを習得することができます。また SDGs や ESD を環境活動に活かす方法も学ぶことができます。

【第 1 回】10 月 13 日 (土)10:00 ～ 17:00 「何を実現したいのか　じっくり考えてみよう」
講師：枚本 育生（環境市民代表理事）、下村 委津子（環境市民副代表理事、eco パーソナリティ）

【第 2 回】10 月 28 日 (日)10:00 ～ 17:00 「仲間と一緒に思いをカタチにする力をつけよう」
講師：枚本 育生（環境市民代表理事）、下村 委津子（環境市民副代表理事、eco パーソナリティ）

【第 3 回】11 月 18 日 (日)10:00 ～ 17:00 「どんな資源 (ちから) があるのか　様々なつながりを考えてネットワークを広げよう」
講師：枚本 育生（環境市民代表理事）、下村 委津子（環境市民副代表理事、eco パーソナリティ）、向井 弘美氏 (地域公共政策士　一期大福会)

【第 4 回】12 月 8 日 (土)10:00 ～ 17:00 「活動を企画する力を高める　いろいろな立場の人と協働しよう」
講師：枚本 育生（環境市民代表理事）、下村 委津子（環境市民副代表理事、eco パーソナリティ）、河合 良太氏（NPO 法人泉京・垂井事務局長）

【第 5 回】12 月 15 日 (土)10:00 ～ 18:30・16 日 (日)10:00 ～ 16:00 「これから私たちは何をするのか　考え、伝え、多くの人にも呼びかけよう」
講師：枚本 育生（環境市民代表理事）、下村 委津子（環境市民副代表理事、eco パーソナリティ）、久山 喜久雄氏（フィールドソサイエティー主宰）

▷参加費：無料／定員：30 人（先着順、原則として全回参加可能な方）
▷会場 : 京エコロジーセンター（京都市伏見区深草池ノ内町 13）／募集締め切り　10 月 6 日 (土)
▷お申込み方法：電話・FAX・HP・来館にて京エコロジーセンターまで、お名前、住所、年齢、電話番号、FAX、E-mail アドレス、参加動機、所属（あれば）を添えて下記までご連絡ください。
京エコロジーセンター　電話：075-641-0911　FAX：075-641-0912
▷主催：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（京エコロジーセンター（京都市）指定管理者）
▷運営：認定 NPO 法人環境市民

企業をエシカル、環境、人権などで評価する通信簿をつくるため クラウドファンディングに挑戦します！　10月1日～

目標金額
185 万円

環境市民が事務局を務める消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークでは、10 月 1 日（月）から Readyfor というサイトでクラウドファンディング（インターネット上での資金集め）を始めました。

環境、消費者、人権、アニマルウェルフェアなど 7 分野について、どの企業が真剣に取り組んでいるのかを調査し 10 段階評価をする「企業のエシカル通信簿」プロジェクトの活動支援を求めるものです。

今年度は家電と外食産業について調査する準備をすすめていますが、どうしても調査のための資金が足りません。

「企業のエシカル通信簿」のことを、ぜひもっと多くの人に知ってほしい、そして応援してほしい！ という思いを込めて、クラウドファンディングに挑戦します！ ぜひご支援ください。

詳細は、下記 URL
https://readyfor.jp/projects/ethicaltsushinbo
あるいは QR コードからアクセスしてください。

ご協力お願いします！



今月のありがとう

（ご寄付） ～8月31日

11,000円のご寄付をいただきました。

東 泰好さん、長崎 純一さん、濱 和宏さん、吉田 文子さん

（ニュースレターの発送） 久保 浩さん、堀家 沙里さん

編集後記▶9月は事務局のコーディネーターが忙しく、ピンチヒッターとして今月号のレイアウトをしました。前例に倣うところ、読みやすいように変えてみたところがあります。みなさんのご意見をお聞かせください（ふ）

●**編集部**……石崎 雄一郎、大西 康史、風岡 宗人、日下部 伸行、下司 智子、佐藤ふみ香、平山 秀昭、向井 弘美（50 音順）

一緒にニュースレターを作ってくれるメンバーを募集しています！ご関心のある方は、環境市民事務局までご連絡ください。

「会員になる」「寄付をする」も参加の一つです。

環境市民は、ボランティアと会員、寄付によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ応援をお願いします。

●**会員特典：** 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。行事などの参加費を割引させていただきます。環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。入会時には記念ポストカードを差し上げます。

●**会員種類：** 法人会員の他、個人会員（年会費 4000円、入会金 1000円）、シニア・学生会員（年会費 3000円）などの種類があります。詳しくは事務局まで。

●**入会申込：** 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容をご記入の上、ご入金ください。

●**ご寄付：** 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上ご入金ください。環境市民への寄付は税制控除の対象となります。

お振込先： 郵便振替　口座番号　01020-7-76578　加入者名：環境市民

誰もが参加できる環境 NGO

環境市民
Citizens Environmental Foundation

TEL 075-211-3521　FAX 075-211-3531
mail life@kankyoshimin.org
〒 604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る第二ふや町ビル 206
【平日午前 10:00 から午後 6:00】
http://kankyoshimin.org/
Twitter アカウント：@kankyoshimin
facebook http://www.facebook.com/kankyohsimin



（発行）特定非営利活動法人 環境市民　（代表・発行人）枚本 育生
本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。